

## 資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [教育カリキュラム](#) | [高野房太郎伝 \(8\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)[▶ キーワード検索はこちら](#)

### 高野房太郎伝 (8)

1897年12月1日、期成会の機関誌「労働世界」が創刊された。

ここで注目されるのは機関誌の発行が期成会の運営の妨げにならぬよう、会員有志から資金を募り、出資者を社員とする「労働新聞社」を設立し発行元としたことだ。

この労働世界の主筆を片山潜が務めるようになり、片山は次第に影響力を強めていく。

またこの日は、労働組合期成会の機関紙『労働世界』第1号が発行されると同時に、長年の夢であった日本最初の近代的労働組合「鉄工組合」が正式に発足した記念すべき日であった。

房太郎の生活は多忙を極め、手弁当の労働運動で生活問題に苦しみ、警察の妨害にも頭を悩ませたが、鉄工組合は大きく発展していった。

1898年11月、房太郎は突然期成会と鉄工組合の役員を辞任する。

発足してまだ1年半の期成会、それによろやく創立1周年を迎えるところまで来た鉄工組合、この2つの組織の責任者、トップリーダーの地位を退くことを決断したのである。

期成会と鉄工組合の責任者の地位を去ったといっても、房太郎は運動から身を引いたわけではなかった。

これまで未開拓だった新たな活動分野に転身したのである。

その新分野とは「共働店」、つまり消費組合運動だった。

1899年7月、わずか半年余りで房太郎は期成会の役員ポストに復帰する。

今度は手弁当の役員ではなく有給役員であった。

この背景には、房太郎の後任として本部常任となった片山潜に対する不満、批判が役員の間にあったからだと思われる。

急激に社会主義の立場をとり始めた片山に対する警戒感が高まり、機関誌「労働世界」の論調にも皆の不信感が高まっていたという。

房太郎の復帰により期成会は片山との「常任2人体制」となったが、期成会や鉄工組合に対する圧力が次第に強まり組織が衰退し始めた。

苦境に陥っていたときに追い打ちをかけたのが1900年3月に施行された「治安警察法」であった。

それとともに運動路線の方針をめぐって片山との対立も明確になってきた。

財政的にもたちかなくなり組織は壊滅状態に追い込まれ、房太郎は労働運動から離れ、また日本からも離れて清国へ渡航する。

1904年3月、房太郎は青島にて病気で亡くなる。享年37歳であった。

片山潜は治安警察法の公布を機に、「経済運動」から「政治運動」にコース転換を図っていた。

1901年日本で最初の社会主義政党である「社会民主党」に幸徳秋水らとともに入党した。

1903年には再度渡米し、翌1904年「第二インターナショナル」の本部員に選ばれる。

1906年日本社会党結党に参加するが、幸徳秋水らと対立し袂を分かたず。

1914年アメリカに亡命、1917年のロシア革命によりマルクス・レーニン主義に傾倒し北米での共産主義活動を展開。

1921年ソ連にわたり、コミンテルン常任執行委員会幹部となり、日本共産党結党の指導をする。

1933年、モスクワで死去。

(終わり)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

## Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[🔍 サイトマップ](#) [🔍 このサイトについて](#) [🔍 個人情報保護の取組みについて](#)

[🔍 ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

**Worker's Library** 静岡で働く人のための資料閲覧サイト  
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.